

特集：障害者の就労を通じたダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの再考**<報告>****障害者の就労支援と文化****—地域・民族・国家によって異なる障害の捉え方と、就労生活に及ぼす影響—**園川千賀子¹⁾, 丸谷美紀²⁾¹⁾ 南大東村²⁾ 国立保健医療科学院生涯健康研究部**Employment support for persons with disabilities and culture:
Differences in perceiving disability among regions, ethnicities,
and nations and their impact on working lives**SONOKAWA Chikako¹⁾, MARUTANI Miki²⁾¹⁾ Minamidaito Village²⁾ Department of Health Promotion, National Institute of Public Health**抄録**

南大東村の障害者（児）手帳所持者数は、村の総人口の6.3%を占める76人である。島内に就労移行・就労継続支援、日常生活用具給付などの障害福祉サービスはなく、障害に特化した専門家を確保することが困難である。一方で、行政・医療・介護関係者が日頃から顔が見える連絡体制を構築しているため、支援対象者の生活や特性をよく理解したうえで関わりを持っている。災害対策も、消防団と南大東村社会福祉協議会で支援が必要となる方をリスト化し、事前の避難誘導や避難所までの送迎を行っている。就業では「南大東村農地・水・環境保全管理協定運営委員会」が行う環境整備事業があり、障害者や高齢者を含めたグループで作業を行い、障害者雇用支援の一助になっている。南大東村では、障害を持つ方も、ある種の個性を持つだけの同じメンバーとして認識されている。さまざまな仕事や役割分担において、ひとりの苦手を、それを得意とするもうひとりがカバーして成り立たせる形態がある。島の人材は等しく貴重で、それぞれができる役割を果たすことで島を成り立たせている。南大東村とアジア農村部には共通点がある。「障害に特化したサービス機関」「障害に特化した専門職」の確保が難しい状況にあるが、行政や関係機関やコミュニティが自然に代替している。また、人々のノーマライゼーションに対する意識が高く、障害のある方もメンバーとして自然に受け入れている。障害者支援を考える上で、都市部から隔離された小規模コミュニティが保持する力の、社会的・環境的な要因や詳細を、解明、特定、再評価することは、大いに活用できる。

キーワード：障害者、就労支援、文化**Abstract**

The number of persons with disabilities (PWDs) holding a disability certificate in Minamidaito Village is 76, which accounts for 6.3% of the village's total population. There are no employment transitions or continuous employment support services, or daily living equipment subsidies for PWDs on the island, which

連絡先：丸谷美紀
E-mail: marutani.m.aa@niph.go.jp
[令和7年5月21日受理]

makes it difficult to secure specialists who are focused on disabilities. On the other hand, the administrative, medical, and caregiving personnel engage in face-to-face communications with the PWDs daily; accordingly, they provided support for PWDs while thoroughly understanding their lives and characteristics. Disaster response involves listing those who need support with the fire brigade and the Minami-Daito Village Social Welfare Council, conducting pre-evacuation guidance, and providing transportation to evacuation centers. An environmental improvement project is being conducted by the “Minami-Daito Village Agricultural Land, Water, and Environmental Conservation Management Committee,” where groups which include PWDs and the elderly work together, which aids in supporting employment for PWDs. PWDs are recognized as members with a certain type of individuality. In various jobs and roles, a method is used where one person's weakness is covered by another with a compensating strength, which allows the work to be carried out. The island's human resources are all equally valuable, and each plays a role in sustaining the island. Minami Daito Village shares commonalities with rural areas in Asia. It is difficult to secure “service organizations specialized in disabilities” and “professionals specialized in disabilities.” However, the government, related organizations, and the community are naturally filling in as substitutes. In addition, people's awareness of normalization is high, and PWDs are naturally accepted as members. When considering support for PWDs, it is highly beneficial to elucidate, identify, and reassess the social and environmental factors and specifics of the power held by small communities that are isolated from urban areas.

keywords: persons with disabilities, employment support, culture

(accepted for publication, May 21, 2025)

I. はじめに

南大東島は、沖縄本島から東に約 360km離れた、大東諸島に属する一島一村の島である。5500 万年前にパプアニューギニアで発生した島が、フィリピン海プレートの移動に伴い日本方面に異動して現在の形になったという歴史的背景から、国内でも希少な動植物の固有種を保有する島である (図1)。

II. 島の歴史

南大東島は有人島としての歴史は浅く、明治 33 年の開拓から 125 年を数える (令和 7 年)。開拓から 46 年の間、南大東島は玉置商会、東洋精糖、大日本糖製糖などの会社経営支配下にあり、教育、医療、警察組織、通貨なども島独自の制度をとってきた。最初の開拓移民が八丈島から島に上陸した後も、八丈島や沖縄県内外などから後

続の開拓移住者が入島し、サトウキビ産業が行われるようになった。昭和 21 年、村制施行により南大東村としての行政が開始し、現在に至る[1]。

III. 南大東島の現状

南大東村の人口は 1208 人、世帯数 700 戸、高齢化率は 23.6%である (令和 6 年 11 月)。南大東村に住民登録をしている方の約 93%が沖縄県内に本籍地があり、他都道府県からの移住者や外国人は全体の 7%である[2]。

南大東島は周囲 360kmを太平洋に囲まれていることから、県内の離島の中でも移動や物流がとりわけ困難な、隔離された環境下である。南大東島から最も近い有人島は、隣の北大東島を除けば 360km離れた沖縄本島であり、沖縄本島までの移動手段は飛行機または船である。南大東島-那覇の間を就航する飛行機は 1 日 2 便で、沖縄本島までの所要時間は約 1 時間である。南北大東-那覇の間



図1 南大東島全景

を就航する船は5日に1便程度で、沖縄本島までの所要時間は約13時間である。

南大東島は亜熱帯海洋性気候に属し、台風の影響を強く受ける。沖縄本島との間を運行する定期的な航空便や船舶便は気象状況やその他の要因で停滞しやすく、定期便の停滞は食料や物資の確保、冠婚葬祭などの重要なライフイベント、自衛隊ヘリによる急患搬送、農作物、漁業、観光などさまざまな面に影響する。このため天候は島での生活に大きな影響を与える要因である。

島内の商業施設は数件の商店と飲食店などで、金融機関として沖縄県農業協同組合と郵便局がある。公共交通機関を持たないため駅やバス停、タクシー乗り場等はない。医療機関は診療所（医師と看護師が1名ずつ）と歯科診療所（歯科医師と技工士が1名ずつ）のみである。

IV. 障害のある方を取り巻く島の状況

南大東村における障害者（児）手帳所持者数は、村の総人口の6.3%を占める76人となっている。障害種類別の内訳では身体障害者が37人（75歳以上25人）、次いで知的障害者が10人（75歳以上0人）、精神障害者が29人（75歳以上10人）となっている（令和6年度）。経年的な推移をみると、身体障害者は増減を繰り返しながら増加傾向にあり、知的障害者は微増で推移し、精神障害者においては横ばいで推移している[3]（図2）。かつて専門医療機関を受診するには沖縄本島へ渡航する必要がある、時間的・経済的な負担の大きさから診断を受けずに過ごしている場合もある。

南大東村には村立へき地保育所（1歳3ヶ月～3歳）が1箇所と、村立幼稚園（4～6歳）・小中学校が1箇所ある。障害児保育の実績・見込みはない。小中学校には特別支援級が1クラスずつある。島内に高校はない。1学年あたり10名前後の児童生徒数である。

村内の子どもたちは、15歳で中学を卒業するまでの間を同じ少数メンバーで過ごすため、同級生は互いに大変近い存在となる。限られた人間関係であるが故に、子どもたちのみならず保護者同士も同級生という場

合もある。子どもたちにとって大人は自身や友だちの家族、大人にとって子どもたちは我が子の同級生やその兄弟である。保護者同士は10年以上にわたり子育てを協力しあう保護者会の仲間であり、地域の住民同士でもあり、職場の同僚や仕事上の関係者でもあり、親戚であったりもする。南大東村における「人間関係」とは、およそ都市部の人付き合いからは想像がつかないほどに濃密で、日常生活のさまざまなシーンに同じメンバーが立場や役割を変えて登場する。メンバーは皆が様々な個性をもち、ともに存在し、個としての生活を送りながら集合体を形成している。

V. 就労状況

南大東村における就業率は64.6%である。従事者の内訳は、一次産業（主に農業）が約30%、二次産業（主に建設・製造）が約27%、三次産業（サービス・公務・運輸通信）が42%である[2]。サトウキビ産業が盛んに行われ機械化が進められており、家業のサトウキビ農家を引き継ぐために高校卒業後に島に戻ってくる若者や、県内外から農業に従事するために移住してくる人など、若い農業従事者も多くいる。

島内にハローワークはない。島内の各事業所において障害者雇用枠で採用されている方の人数は不明であるが、南大東村役場に1名の雇用実績がある。村役場窓口失業保険給付申請のための代理窓口がある。これまで、障害のある本人や家族による職業紹介の希望や、失業保険給付申請はされていない。

VI. 障害のある方へのさまざまな支援

島内における就労移行・就労継続支援、居住支援、成年後見制度、日常生活用具給付などのサービス見込みや実績はなく[3]、障害者支援を専門的に扱う療育支援センターや障害者雇用支援センターなどを利用する場合は沖縄本島に行く必要がある。

障害に特化した専門家を確保することが困難な一方で、南大東村では、行政や社会福祉協議会などが相談窓口を設置し、自立支援協議会などで障害者支援に関する検討などを定期的に行っている。また、南大東村役場福祉民生課・保健センターでは、平成26年以降、月1回から年に数回、県内外から専門医を招聘し、発達に特化した小児科の巡回診療や、精神科の巡回診療（認知症外来を含む）を実施している。小規模離島の利点で行政・医療・介護関係者が日頃から顔が見える連絡体制を構築しているため、支援が必要な方に関する情報共有がスムーズに行われている[4]。関係者も支援が必要な方も、ひとつの集合体のメンバーであることから、関係者は支援対象者のバックグラウンドを含めた生活や特性をよく理解したうえで関わりを持っている。南大東村役場職員で構成されている消防団と南大東村社会福祉協議会では、台風

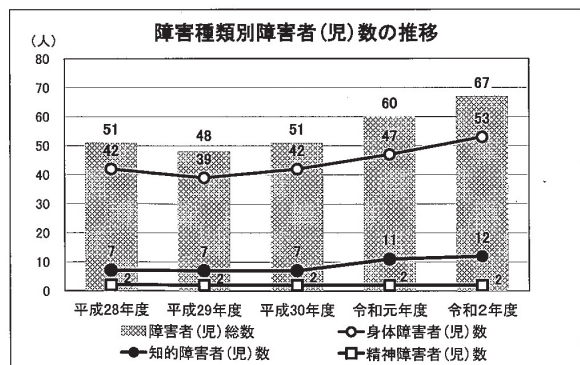


図2 南大東村第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画より

などの災害時に支援が必要となる方をリスト化し、事前の自宅訪問による避難誘導や自宅から避難所までの送迎を行っている。

また、南大東村役場産業課や関係委員会等において、島内の緑化や美化活動、環境保全活動等のさまざまな事業を行っている。一例として「南大東村農地・水・環境保全管理協定運営委員会」が行う環境整備事業[5,6]がある。この事業は、運営委員会が島内各所の清掃作業を計画し、受託を希望する村民に作業を委託するものである。受託を希望する場合は希望者同士で数名の作業グループを作り、代表者が受託の申込みをするルールになっている。これは作業中の事故や怪我の際の発見が遅れることを危惧して作られたルールであるが、結果的に、任意のリーダーが障害のある方や高齢者に声をかけてグループ化し、作業受託のための窓口申請や事務手続きなどをリーダーが一括して行い、障害者や高齢者を含めたグループで作業を行う現状に繋がっており、障害者雇用支援の一助になっている。

VII. 南大東村障害福祉計画

南大東村では、3年ごとに「南大東村障害福祉計画」を策定している。同計画は「障害のある村民の安心した暮らしを一人ひとりの思いやりで支える共生の島づくり」を基本理念に、障害者総合支援法及び児童福祉法に基づき、「市町村障害福祉計画」と「市町村障害児福祉計画」を一体的に策定したものである。計画の対象者は「身体障害」「知的障害」「精神障害」の3障害、及び難病等の該当者である。

計画の基本指針として、「入所者が地域生活へ移行するための支援」、「地域で生活を維持継続できるような支援」「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」「就労支援」などが挙げられている。基本方針に挙げられた成果目標以外の検討項目として、「障害者虐待の防止」「意思決定の支援の促進」「障害を理由とする差別の解消の促進」などが挙げられている[3]。

VIII. 南大東村とノーマライゼーション

ノーマライゼーションとは「障害のある人が障害のない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指す」[7]ことであり、「高齢者や障害者を排除することなく健常者と同等に当たり前に生活できるような社会こそがノーマルな社会であるという考え方」[8]である。

前述のとおり、南大東村では、日常生活のあらゆるシーンに同じメンバーが形や役割を変えながら深く関与する。メンバー全員が様々な個性をもちながらともに存在し、障害を持つ方も、ある種の個性を持つだけの同じメンバーとして認識されている。人材の少ない島であり、いわゆる専門家と呼ばれる人材も確保できない中で、さまざまな仕事や役割分担において、ひとりの苦手を、そ

れを得意とするもうひとりがカバーして成り立たせる形態は、南大東村のどんな場面でも珍しくない風景である。障害を持つ方への支援はその延長線上にある。それは、話し合いや会話の中では「ちょっとやってあげること」などと表現されており、「支援」と大仰に表現される場面はさほど多くない。南大東村の人間関係において、障害を持つ人々は「何かしらの特別な配慮をする相手」でも「差別の対象」でもない。怪我をしたメンバーがいたら手を貸すように、車椅子のメンバーがいるから押す。勉強やスポーツが得意なメンバーと苦手なメンバーがいるように、状況理解や自己表現が苦手なメンバーがいる。ただそれだけのことである。島の人材は等しく貴重で、それぞれができる役割を果たすことで島を成り立たせており、障害をもつ人々も個性のベクトルが異なるだけの同じ集合体のメンバーである。

IX. 国家・民族・宗教による障害の捉え方、相違点や共通点

筆者の国際保健活動（2005～2012、フィリピン、ベトナム、タイ、バングラデシュ）の経験では、障害をもつ人々が当たり前に集合体のメンバーとして存在する状況が、東南アジア・南アジアの国々の農村地域においても同様に見られた。

日本とアジアの国々では障害者支援に関して性質の異なる課題を抱えており、南大東村とアジアの農村部も同様である。南大東村は日本の制度に基づきサービスを行っている一方で、アジア農村部では行政サービスが地方まで行き届かず、制度そのものが存在しない場合もある。時には障害をもつ人を「神の化身」と崇めたり、反対に「天罰」と捉え存在を恐れたりする。しかし、南大東村とアジア農村部にはある種の共通点がある。それは、都市部から隔離された小さなコミュニティで人々が互いに近い存在で暮らしている点、障害者サービスにおける資源や利用に何らかの制約がある点、その制約のいくつかが周囲の人々により代替されている点、などである。どちらも、地域の中で「障害に特化したサービス機関」「障害に特化した専門職」の確保が難しい状況にあるが、その役割を行政や関係機関やコミュニティが自然に代替している。また、人々のノーマライゼーションに対する意識が高く、障害を持つ人々を特殊な存在として腫物に触るように扱うこともなく、逆に差別をすることもない。障害のある方であってもその他大勢と同様の集合体のメンバーとして自然に受け入れている。

X. 小規模コミュニティの利点

南大東村のような都市部から隔離された小規模のコミュニティにおいて、「障害者」「健常者」という区分は必ずしも必要ではない。区分されることで受けられる支援は都市部と比較すれば限りがあり、区分されたからと

って何かが大きく変化することもないからである。「地域生活への移行」「就業支援」といった堅苦しい言葉で表現される支援は、行政を含めたひとつの集合体の生活の一部分として自然発生的に行われている。それは「健常者が障害者を支援している」という図式を意識することもないほど生活に根差している。

障害者支援を考える上で、都市部から隔離された小規模コミュニティにおける生活から得られる示唆は大きい。核家族化、少子化、IT化が進む現代社会において、人々が本来持っている自治の力や、自然発生的な共助の力は失われつつある。しかし、都市部から隔離された小規模のコミュニティは、都市部と比較するとそれらの力を未だ保持している。それは「互いを近い存在として助けあう生活スタイル」「そこに暮らす人々の背景や価値観や文化」「コミュニティで形成されるグループダイナミクス」などがベースとなっている。都市部から隔離された小規模コミュニティが保持する力の、社会的・環境的な要因や詳細を、解明、特定、再評価することは、今後の障害者支援に大いに活用できる。

引用文献

- [1] 南大東島ホームページ. [South Borodino Island.] <http://www.vill.minamidaito.okinawa.jp/index.html> (in Japanese) (accessed 2025-1-31)
- [2] 南大東村. 南大東村勢要覧 2023. 南大東村役場; 2023. Minamidaito Village. [Minamidaito village statistics.] Minamidaito Local Government; 2023 (in Japanese)
- [3] 南大東村. 南大東村第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画. 南大東村役場; 2021. Minamidaito Village. [Minamidaito Village 6th phase disability and welfare plan/2nd phase welfare plan for children with disabilities.] Minamidaito Local Government; 2021. (in Japanese)
- [4] 南大東村. 南大東村高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画. 南大東村役場; 2022. Minamidaito Village. [Minamidaito Village elderly welfare plan / Minamidaito 8th phase Long Term Care Insurance Strategy.] Minamidaito Local Government; 2022. (in Japanese)
- [5] 沖縄県多面的機能保全推進協議会. 沖縄県農業・農村の多面的機能活動事例集. 那覇: 沖縄県; 2024. Okinawa Multi-functional Maintenance Promotion Council. [Okinawa multi-functional agriculture and rural areas activities.] Okinawa Prefecture; 2024. (in Japanese)
- [6] 農林水産省. 多面的機能支払交付金のあらまし. 東京: 農林水産省; 2024. Ministry of Agriculture, Forestry and Fishers. [Multi-functional payment for agriculture and rural areas.] Ministry of Agriculture, Forestry and Fishers; 2024. (in Japanese)
- [7] 厚生労働省. 障害保健福祉部. Ministry of Health, Labour and Welfare. [Department of Health and Welfare for Persons with Disabilities.] https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/profile_1/syougai.html (in Japanese) (accessed 2025-1-31)
- [8] 三幸福祉カレッジ. Sanko Fukushi College. [Normalization towa? rinen ya rekishi ni tsuite kaisetsu.] https://www.sanko-fukushi.com/news/normalization_column (in Japanese) (accessed 2025-1-31)